

令和5（2023）年度 卒業時アンケートの集計結果報告（短期大学部）

2024年5月25日

IR推進室

実施期間 2024年2月22日から3月31日まで

実施方法 Google フォーム

対象者：2022年度生 幼児保育学科 81名 介護福祉学科 17名

回答数 97 回答率 100%（除外すべき重複回答であると判断ができないものを含める）

2022年度生の短期大学部 98名に調査を実施し、回答率 98%を得た、この結果から本学における2年間の学生生活の満足度を検討していく。

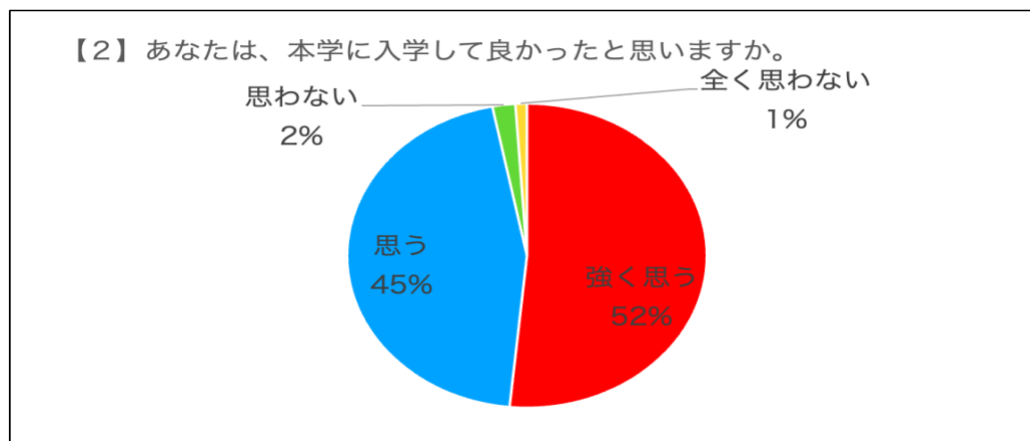
全体的な学生生活に対する満足度に関する質問【2】～【4】について

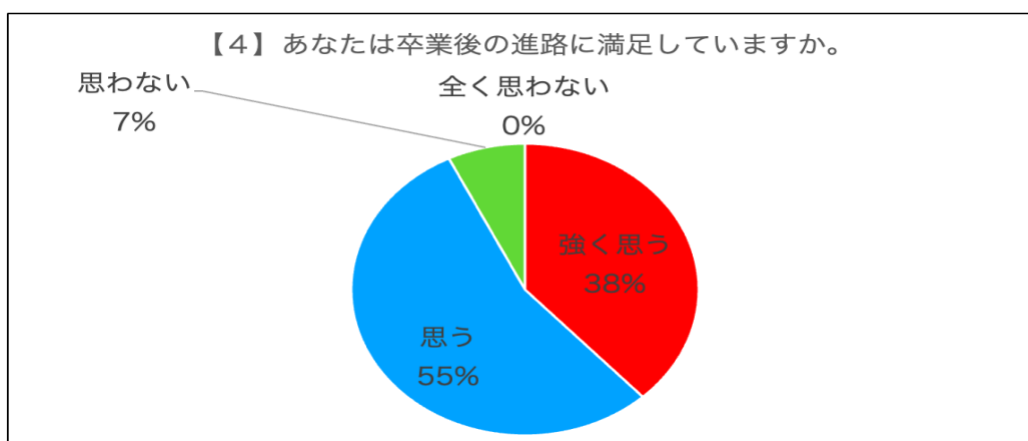
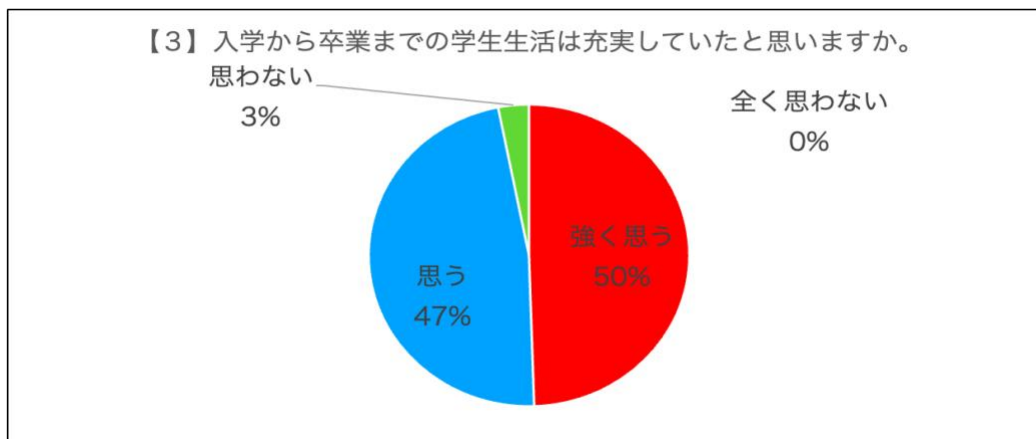
【2】「あなたは、本学に入学して良かったと思いますか」

【3】「入学から卒業までの学校生活は充実していたと思いますか」

【4】「あなたは卒業後の進路に満足していますか」

質問【2】から【4】において、「強く思う（非常に満足）」もしくは「思う（満足）」の占める割合が、すべての質問項目で、93%以上となり、「全く思わない（非常に不満足）」が1%であったことから、学生が2年間の学校生活に満足している様子が読み取れる。





学修成果、自身の成長へのカリキュラムの有用性に関する質問【5、6】及び【8】について

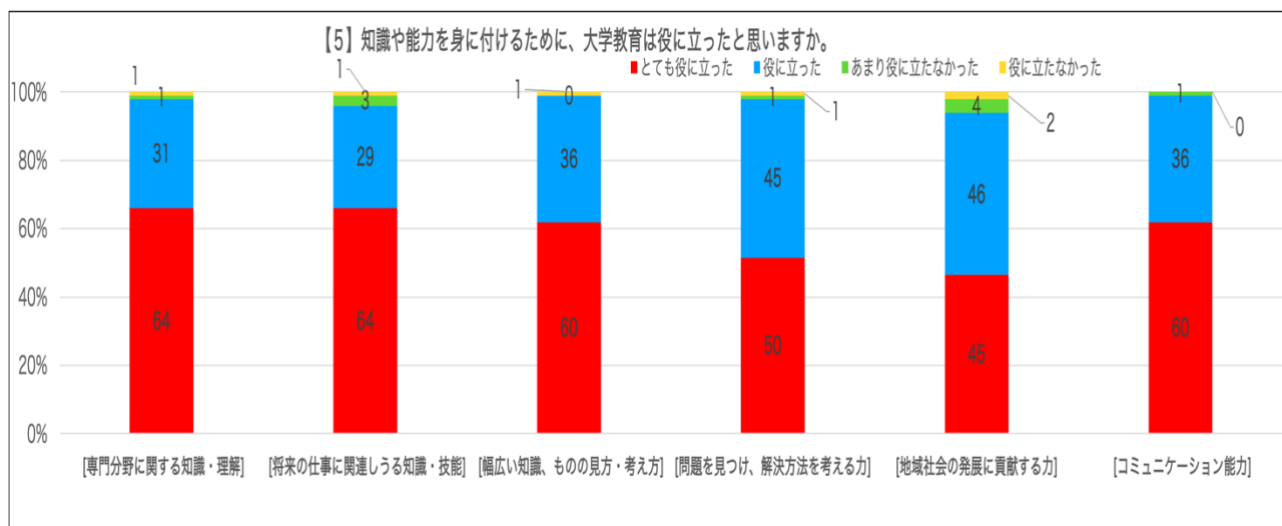
【5】「知識や能力を身に付けるために、大学教育は役に立ったと思いますか」

【7】「在学中に参加した行事について、その経験は新たな気づきや学び、自分の成長のために役立つものでしたか」

【8】「本学で実施した次の資格・免許取得に関する事前事後教育や就職支援について、その経験は役に立ったと思いますか」

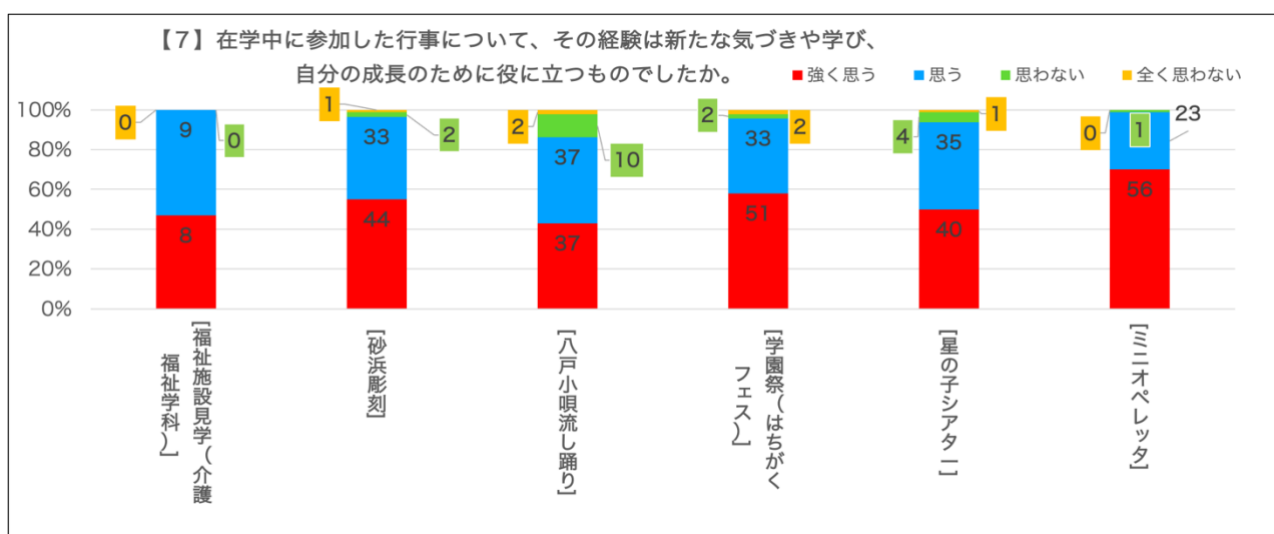
※上記の【7】【8】の質問項目の結果は、「経験していない」との回答数、さらに「未経験」で回答すべきでない項目への回答について、所属学科から判断し「経験していない」と再集計し分母から除外している。

質問【5】のカリキュラムの有用性では、「とても役立った」「役立った」の占める割合が、すべての項目で94%以上となった。「とても役立った」>「役立った」（図表中、赤の方が青より高い）項目は、「地域社会の発展に貢献する力」以外のすべてとなり、学生は学修成果の獲得に対するカリキュラムの有用性を実感していることが読み取れる。



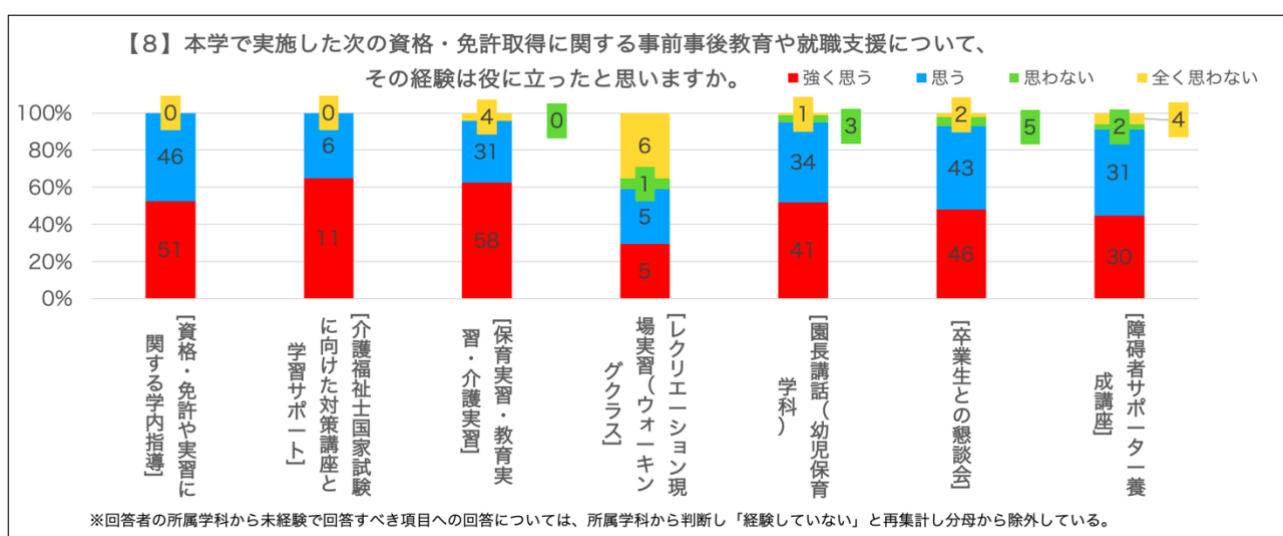
質問【7】の各学科の行事の有用性では、「強く思う」「思う」の占める割合が、「八戸小唄流し踊り」を除き、すべての行事で90%以上となり、「八戸小唄流し踊り」も87%と高く、どの行事も学生の貴重な経験になっていることが読み取れる。

一方、「強くそう思う」>「思う」（図表中、赤の方が青より高い）項目は、「砂浜彫刻」「はちがくフェス」「星の子シアター」「ミニオペレッタ」となった。昨年度のアンケートでは「福祉施設見学」のみであり、2023年度は新型コロナウイルスの影響も緩和し内容等の制限が少なくなった点、行事担当者による内容・方法の工夫により、より肯定的な結果になったと考えられる。この点をふまえて、今後も学生の自己成長の実感に結びつくよう学科として行事について検討していく必要であると考えられる。



質問【8】の資格・免許取得に関する事前事後教育や就職支援の有用性では、「強く思う」「役立つ」との占める割合が、「レクリエーション現場実習」以外のすべての項目で91%以上となり、概ねその有効性が読み取れる。とくに「資格・免許や実習に関する学内指導」「介護福祉士国家試験に向けた対策講座」は、100%、「保育実習・教育実習・介護実習」「園長講和」も95%以上であることから、本学のカリキュラムが専門家としての現場の実践力の向上に注力し取り組んできた成果であると感じ取れる。

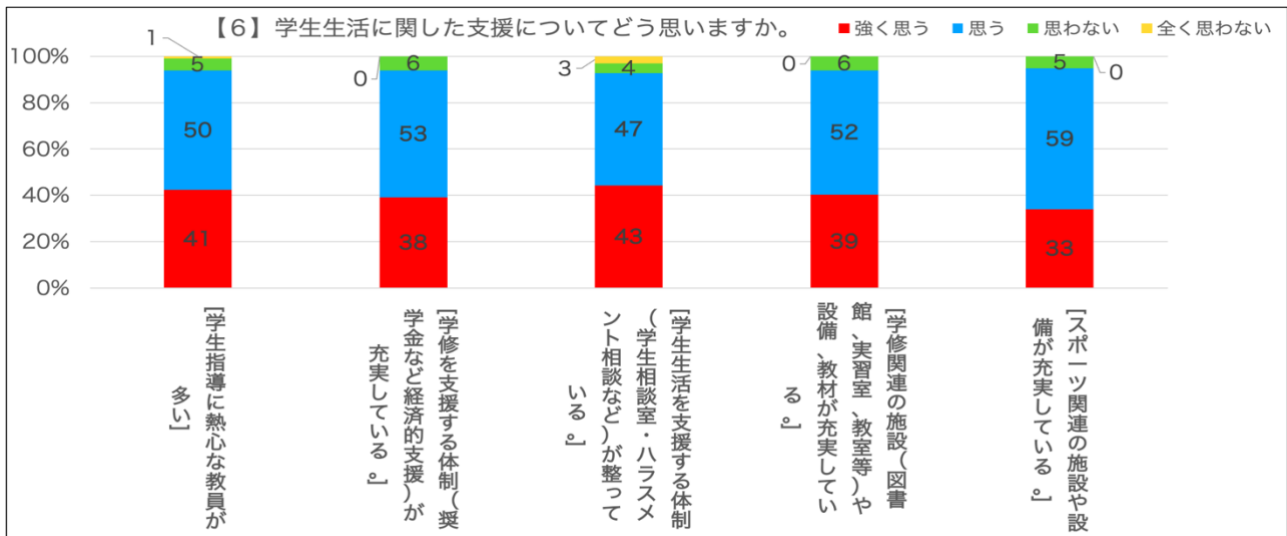
一方で、「強く思う」>「思う」（図表中、赤の方が青より高い）項目は、「障害者サポーター養成講座」以外のすべての項目であり、今後もより学生のニーズに応じられるよう、その内容の検討を進めカリキュラムの質の向上に努める必要も感じ取れる。



2年間の学生生活を支える支援体制の充実に関する質問【6】について

【6】「学生生活に関した支援についてどう思いますか」

質問【6】の学生生活の支援体制の充実では、「強く思う」「思う」の占める割合が、すべての項目で93%以上であり、概ね学生は支援体制について充実していると感じていることが読み取れる。一方で、「強く思う」>「思う」（図表中、赤の方が青より高い）項目は、ひとつ項目もない。昨年度のアンケート結果と比較して、その割合の差は非常に小さくなっている。支援体制の充実に向けた取り組みを鋭意進めていく必要性が窺える。とりわけ、人的な支えとして、教員の存在・相談体制について「学生指導に熱心な教員が多い」「学生生活を支援する体制」「学修関連施設や設備、教材」の回答割合（「強く思う」<「思う」）を重く受けとめ、学科の教員集団の意識の改革に努め、学びを支える土台になる設備、教材の充実に向けた取り組みを、一層進めていく。



2年間の学生生活の満足度に関する質問【9】について

【9】 あなたは本学への進学を誰かに勧めたいと思いますか

質問【2】から【4】と同様に、「強く思う」「思う」の占める割合が、97%以上であり、質問【9】からも、学生の学生生活の満足度が高いことが読み取れる。しかしながら、【2】から【4】と比較して「強く思う」の割合は最大で20ポイント、若干減少していることから、誰かに勧めるということを考えると、学生は、より厳しい視点から本学全体を見つめている可能性も窺える。その要因については、自由記述の質的な分析から同定を試み、今後の高等教育機関としての質向上に努めていきたい。

